

活動報告書
2020-2021



機構長ごあいさつ 個人と地域の両面からの 産学官民協働まちづくり戦略	01
IOGとは	02
IOGメンバー	08
リサーチビジョン	13
個別研究プロジェクト	30
産学連携プロジェクト	64
Special Session 産業界×IOG アカデミアと産業界が共創する高齢社会の未来	65
IOGの業績	96
WINGS-GLAFS	124
インフォメーション	146

個人と地域の両面からの 産学官民協働まちづくり戦略

「人生100年時代」と言われる中で、どの世代の方々にも、日々の生活を通して生きがいと幸せを感じてもらえる人生を送って頂きたい。また、老いは避けられない中で、健康長寿を実現し、自助・互助が軸となる地域づくりが全国で展開され、個々の国民が生き切った人生を送れるようにするために、地域社会を実情に合った形で再構築していきたい。それらを実現するためには、なぜこのような状況に陥っているのかという現状評価や課題認識、さらには仮説設定も求められます。一方で、先を見据えた将来（未来）ビジョンをクリアに描き、そこにエネルギーを推し進めていくパワーとパッションも必要でしょう。

我々、東京大学高齢社会総合研究機構（Institute of Gerontology：IOG）は、分野横断型の学際的な総合知を活かし、全国の数多くのモデルフィールドを持ちながら、まさに社会地域連携を基盤とする課題解決型実証研究（アクションリサーチ）を展開しております。

わが国の加速する少子高齢化を背景とし、地域社会およびそこに住む国民一人ひとりのあるべき姿の将来ビジョンを描き、産官学民協働でネットワークを構築し、総合的な知識を体系的に体得して、「エビデンスに基づく政策提言」、さらには「新たなビジネスモデルのチャレンジも可能にする住民主体の活力あるまちづくり」を戦略的に狙っていく研究に取り組んでおります。

今回は「2020-2021年」の活動報告書として、様々な出来事のあった2年間だったと振り返ります。2020年春に新機構長として着任し、IOGがまさに連携研究機構へと改組しました。そこには未来ビジョン研究センターと先端科学技術研究センターの新たな仲間も新規に参画して頂きました。元々ジェロントロジー分野の産学連携には力を入れてきましたが、さらに質を高めるべく、「ジェロントロジー・アカデミー」の開設も行い、多くの産業界の方々や学び、交流を深めております。そして、IOGが新たな一歩を踏み出す同時期に、まさにコロナ・パンデミックと直面することとなり、このコロナ禍で悩みながらも、創意工夫を重ねてきた2年間であったのでしょうか。また、全学としてはUTokyo Compassも2021年9月に公表され、その打ち出された方向性に対して、我々IOGは幅広い視点で貢献できていると自負しております。

最後に、IOGの地域連携は、すでに100か所を超える自治体との連携となっており、研究者が集っているだけではなく、全国に数多くの行政メンバーや一般地域住民と、そして産業界も数多くの企業様がジェロントロジーの一員となって下さっており、全員でビジョンを共有しています。まさに「産学官民協働を軸とするジェロントロジー・ファミリー」により、多角的かつ立体的に超高齢社会の課題解決に取り組んでおります。我々の研究成果をより多くの方々にご覧いただき、ともに考え、そして新しい日本を創る一助となれば幸いです。

東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長
東京大学 未来ビジョン研究センター 教授

飯島 勝矢

